SURE 静岡大学学術リポジトリ
Shizuoka University REpository

西オーストラリア大学を訪ねて：巻頭言にかえて

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2011-09-01 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 土, 隆一 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00006130

巻頭言にかえて

西オーストラリア大学を訪ねて

土　隆　一

"The Sunniest City"と呼ぶにふさわしい、くっきりと明るい西オーストラリアの首都パースをたずねたのは押しつまった12月26日。でもここではまさにさわやかな夏。遠くに準平原をなす楯状地をながめながら澄み切ったスワン河のほとり、緑の芝生、ユーカリの多い特有な樹林と目もさめるような色とりどりの花園にかこまれた絵のような美しさの中にある、英国調のクラシックな建物が50年の歴史をもつここの大学であった。

スタッフは変成岩をやっておられるPrider教授以下8名、ドクターコース2、シニア15となかなか大勢。教室は3階建て — わが理科館の現在の広さぐらいあるわけ — 玄関前の芝生に大きなPre－CのGneissがどっしりとすえてあった。中へはいってもっとも広くてりっぱなのが標本室、講義室6つ分もある広さにショウインドウで整然と並べてあった。さすがにTertiaryはきわめて少ないがネオトリゴニアが光っていた。

何とも感心したのが教室のどの床もピカピカしていることだ。街路にチリ1つないのはともかく地質の教室には我々と同じようにほこりにうずもれた標本もあるだろうと思っていたが、標本倉庫にはいってみてもあてがはずれた。まあ、石英砂と、生物遺骸石灰質砂からなるこの辺の地質のせいにしておこう。もろぶたは我々の$1/2$の大きさで、大きな体の学生が軽々と小さなもろぶたを持っているのはちょっと奇妙な感じだ。図書室は全部開架式、中に1つだけエキゾチックなものがあるなと思ったら、なつかしい日本の地質学雑誌だった。

まだ地質図はおろか地形図さえできていない地域が沢山ある。答は一つ、人が足りないであった。夏休みで、Paleontologyをやっている活発な？しとやかな？女子学生諸君に会えなかったのは残念だったが、堆積学専攻の学生諸君と話すことができた。今年の講座のプロジェクトは800 Km北方のシャーク湾の調査で、全員がそれにとり組み、これから飛行機でフィールドに行くのだそうだ。来年の休みはロンドンだそうでこうなると地球もせまい感じでうらやましい。とにかくみんな楽しそうだ。

案内してくれた一番デラックスなところが美しいじゅうたんを敷きつめたTea Room であった。毎日午後3時のお茶の時間には、ここで話の花を咲かせる由、心から愉快に生活を楽しむというのが西オーストラリアの人達の徹底した信条のようであった。